

国立大学法人大阪大学総長の業績評価について

令和2年12月21日

総長選考会議

国立大学法人大阪大学総長選考会議規程第3条第2号に基づき、また平成28年9月1日の総長選考会議決定により、本総長選考会議（以下「選考会議」という）は、総長の任期6年目に実施する業績評価として、令和元年11月～令和2年10月の期間における業務執行状況の確認を行った。

1. 業務執行状況の確認方法

選考会議としては、総長の業績評価に係る観点について、(1) 所信表明書及びOUビジョン2021の進捗状況、(2) 令和元年度定期監査報告を受けての対応状況、(3) 経営協議会における学外委員からの意見及び前回の総長選考会議による総長業績評価結果を受けての大学運営への反映状況を設定した。

以上の観点に基づき、第39回総長選考会議（令和2年11月4日開催）において、最初に監事との意見交換を行い、続いて総長による業務執行状況の説明を受けた後に、総長に対する質疑応答を行うことにより、業務執行状況の確認を行った。

2. 結果

今回の業務執行状況確認の期間である令和元年11月～令和2年10月は、熟成期の後半が終了して完成期がスタートした時期である。この重要な時期にコロナ禍に見舞われたことになるが、学生のことを第一に考え、新入生の交流会開催やオンライン授業への対応、資金的な援助も含め迅速かつ総合的に対応したことは高く評価できる。また、コロナ対策に追われる困難な状況にありながらも、昨年度アップグレードしたOUビジョン2021の実現に向けた重要施策を、対話を重視したリーダーシップを発揮しながら推進し、様々な成果を挙げていることはとりわけ高く評価される。特筆すべき成果としては以下の事項を挙げることができる。

- ・OUエコシステムは、コンセプトとして素晴らしい上に、実学の大学として大阪大学が実現していくための方策が具体的に示されていて構成員にも取り組みやすく、着実な

展開を見せており、「研究の阪大」のマルチ展開の促進に貢献している。

- ・イノベティブとオープンの方を兼ね備えたシンクタンクである社会ソリューションイニシアティブや社会技術共創研究センターを立ち上げたことは、時代の求めに即したことを単に言葉だけで終わらせずに実行しているものであり、それらの活動が評価されて、大阪大学は文部科学省「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」に唯一採択された。
- ・ダイバーシティ&インクルージョン環境のさらなる充実に向けた活動を継続している結果として、女性人材の確保と育成において成果が実を結びつつあり、また「PRIDE指標2020」で大学として唯一の2年連続最高評価の「ゴールド」を受賞した。

今後はOUビジョン2021の実現に向けて対話を重視したリーダーシップを引き続き発揮することを期待するとともに、研究不正、危機管理等コンプライアンスにかかわる取り組みも継続して実施することを要望する。